

団長の独り言
第三七回公演「明日への旅路 in 板橋」

「白熱を重ねた自主稽古」

(Amatias)

「団長の独り言」を「愛読の皆さま、半年ぶりのご無沙汰です。脚本執筆中の団長に代わりまして、何週かに渡り、劇団メンバーによる「独り言」をお届けしていますが、今回は Amatias が担当いたします。よろしくお祈りします。」

今年「記録的な暖冬」と何度も天気予報で聞いていたくらい、私自身が寒さに強いことを差っ引いても、本当に冬でもそれほど寒いと感ずる日はあまりなかったように思います。板橋区文化・国際交流財団様が毎回共催してくださる板橋での公演は、ふあんハウスの冬の風物詩としてすっかり定着しています。

その証拠に、「赤坂も板橋も観に行くよ！」とか、「冬には板橋公演あるんだよね。楽しみにしてるよ！」といった声を沢山いただく機会が増えるようになっていきました。

これだけ多くの方が板橋公演を楽しみにしてくださっているんだなあとと思うと同時に、お客様により楽しんでいただける舞台を作っていくかなければと、より一層気持ちがいっしょと引き締まります。

板橋公演に限らず、ふあんハウスの音楽チームとしてこれまでも様々な

ミュージシャンが BGM に花を添え、表現の幅を広げてくれました。

作品によつては全編を一人で担当することもありますが、それぞれの楽器が持つ音色が作品を盛り上げてくれることも少なくありません。

で、今回はというと、主に祭り囃子で耳にすることの多い和楽器、篠笛とのコラボレーションでした。

篠笛の軽快で且つ華やかさを得意としている音色は、それこそ祭りとしてこれまでも耳にする機会は多く、その音色が今回の作品でどんな化学反応が起きるのか、合わせる前からワクワクしていました。

篠笛を担当してくれる岡部さんが初めて稽古場にいらして、司会者のナレーションが入る BGM を篠笛で聞かせていただくと、どこか寂し気な雰囲気を残しながらも快活さも打ち出した音色が、司会者のナレーションともマッチして、新しい風が吹き込んでくれそうな予感がしました。

更に、通常の稽古と並行して、平日の夜に、週一から二回のペースで、音楽班の自主稽古も行いました。

もちろん、エンディングで歌う「明日(あした)への旅路」にも篠笛は加わりますが、スリーミーを体験するお客さんの役で出演していた松本さんが、ギターもできるとのことだったので、ギターも加わるようになりました。

篠笛との合わせは、楽器の特性を生かしつつ、色々なパターンを試しながら、ほぼ順調に稽古を進めることができたものの、ギター稽古の道は決して平坦ではありませんでした。

「明日(あした)への旅路」の冒頭にはギターソロのパートがあり、以前電子ピアノにギターパートの部分を持ち込んだ際も、ギターの電子音には、時間をかけた部分でした。それだけに、「これを本物のギターで演奏したらより深みのある味が出るだろうなあ・・・」なんて、そんなことを想像していました。

しかし自主稽古でのギターのソロパート部分は、かなり難を極めました。突然音が追えなくなったり、焦りから来る緊張感からか、音が固くなってしまう、一筋縄ではいきません。

自主稽古の時間は一時間から一時間半という限られた時間だったので、自主稽古終了後も、ギター奏者の松本さんに対しては、「歌を引き立てる演奏をするうえで大切な事」や、「忙しくても必ず毎日楽器に触れること」といったこと等、毎回のように伝え続けてきました。

板橋区立文化会館の小ホールにお客さんが大勢いらっしゃるイメージを膨らませ、演歌歌手のコンサートの生オケの雰囲気、そしてバンドのライブ演奏のエンディングといった雰囲気などを毎回想定しつつ、私自身の思い入れの強いイントロのメロデ

ィーでは、納得がいくまでこれでもかってなくらいみなとの演奏を重ねてきました。

そんな調子だったから、音楽班の自主稽古が終わるころには熱気で全身が熱くなってしまい、寒風すらも心地良いくらいでした。

でも、どれだけ稽古を重ねても、本番当日を迎えるまでは、「果たしてちゃんとうまくいくんだろうか？」と不安な気持ちがあったことも事実でした。

しかし！本番ぎりぎりまで緻密に稽古を重ねた甲斐あって、エンディングでのギター演奏が決まった瞬間、心の中で「よっしゃー！」とガッツポーズをし、そして涙を堪えるのが大変でした。

「稽古は嘘をつかない」という言葉もあるように、稽古を重ねた分だけ後でしつかり結果が付いてくることを改めて知り、今回の稽古を通して、この言葉の意味をかみしめているところでした。

もちろんこの成功に甘んじることなく、これからもさらに上のステップを目指し、走り続けていきます。

最後になりますが、ご来場いただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。

今後とも、劇団ふあんハウスをどうぞよろしくお祈りいたします。